

地域農業をリードし、連携・一体で取り組む「遊佐農業」の魅力創造・発信！

高橋 良彰（遊佐町）

1 受賞者の概要

昭和45年に水田3.8haで就農後、規模拡大を進め、平成に入り園芸品目の導入で複合化し、加工なども加えた周年農業を実践している。現在、水稻10ha、園芸品目等4ha（パプリカ、アスパラガス、えだまめ、さつまいも、そば、なたね等）と干し芋加工に取り組んでいる。

さらに、自身の営農展開に留まらず、産地化・特産品の開発など地域農業の改善・発展に大きく寄与している。



高橋良彰 氏と後継者 洸太氏

2 活動内容

（1）経営発展（規模拡大、複合経営、周年農業、6次産業化）

就農後、大豆転作受託組織「万石会」の活動と共に水稻の規模拡大を進め、平成に入り園芸品目を導入し、複合経営に舵を切った。

平成8年に、いち早くパプリカ栽培に取り組み、地域生産者への普及拡大を進めた結果、遊佐町は平成22年に日本一の生産者数（85名）を誇る産地となった。

農業委員会会長時に、遊休農地解消として取り組んださつまいも栽培は、特産品の芋焼酎「耕作くん」の原料生産や冬季労力を活用した「干し芋」の加工・販売に発展している。

また、道の駅「ふらっと」で販売動向を見極めるため、多種多様の野菜を試作栽培している。現在、年間をとおして約70種の商品を販売し、消費者の方に喜んでもらい、自分も楽しむ農業を探り続けている。

（2）地域貢献（雇用創出、後継者育成）

地域雇用の積極的な活用は、園芸部門の拡大や加工製造の開始、複数の販売先への細やかな対応を可能にさせ、複合化・周年化の実現に至った。

また、長年、農林大学校学生の体験学習受入れや、近年では新規就農希望者の年間研修を引き受け、担い手育成・確保に力を入れている。「遊佐町チャレンジファーム」にも受入農家として率先して登録し、地域生産者からの相談にも気兼ねなく対応している。

（3）地域連携による情報発信（消費者交流等）

地域が育んだ農産物は地域の魅力となり、平成20年から代表を務める「遊佐ノ市」（町の友好都市である東京都豊島区の各所にて、遊佐町産の野菜、特産品を定期販売。）をはじめとする消費者交流に発展している。中学・高校生が町のPR用に「パプリカレシピ集」を自発的に作成するなど、多様な形で情報発信に繋がっている。

3 今後の発展方向

平成28年、他県の農業法人で経験を積んできた長男の洸太氏が就農し、親とは別の大規模野菜経営の準備を進めている。一方、良彰氏は同年、農地を4ha拡大し経営改善に意欲的である。洸太氏と良彰氏の経営が融合するタイミングで法人化を考えており、親子力を合わせ、遊佐農業の魅力創造に繋がる更なる経営発展が期待される。